

令和6年度 高崎麓小学校 学校評価報告書

【学校経営ビジョン】

一人一人を大切にし、小規模校の特色を生かした教育活動を展開するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組により、子どもたち一人一人のよさや可能性を伸ばし自信をもたせる教育を推進する。

* 右側の外部評価欄に4段階評価の点数、コメント欄に気付かれた点や感想などを御記入ください。
4段階評価
【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】

評価項目	評価指標	数値目標	自己評価	自己評価に対するコメント(○成績 ●課題)	改善方策	外部評価	学校関係者のコメント
			項目 達成率 (%)	項目 評価	総合		
学力の確かな向上	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着のための授業改善	○全国、みやざき学力テストの県平均以上、単元テスト期待平均点以上	100	4	○授業改善の4つのチェック項目を常に意識して授業をこなしていた。100% ○元テスト期待平均以上で単元100%児童82%が合格が高い。 ●全国学力テストでは、「メモから文へ読み解く力」の読み取りから計算する力を身に付けさせる手立てが必要であった。	○引き続き、文葉や図から読み解く力を伸ばす授業の改善が必要である。 ○都市市主導Q-1プラン(リ、AI+リ)等の積極的な活用を図る。	○授業に取り組む姿勢もよく、積極的に発言する姿を見て、学習意欲が感じられた。学力向上に繋がっているのではないか。
		○「高崎地区学習の心得」の達成率80%以上	100	4	○「高崎地区学習の心得(TSR)」について中一貫での取組み、啓発活動を行った。継続して指導していく。	○初の取組となつたので、次年度も引き続き行い、職員、保護者、地域の共通理解・定着を図つてていく。	○「高崎地区学習の心得」を児童・保護者へ積極的に発信し、来年度も継続して取り組んでいくたい。
	2 児童一人一人に応じた指導方法・体制の工夫・改善	○授業が「分かる」と回答する児童80%以上	94	4	○とても良くわかる52% 良く分かる41%答えた。先生方が4つのオックボットを使った授業改善に取り組みを行った。 ○CTC効果を活かす活動の校内研修、一人一人授業研究実践を行った。 ●年間の目標などを通して、「わかる授業」を行っていく課題がある。		○児童が授業内容を本当にできているのか確認が必要ではないか。
		○週2回のチャレンジタイムの時間の計画的運用・実施	100	4	○週2回(国語・算数を中心に読み取り問題、新聞からの読み取り読むよむワークシート)※都城市主催)を取り組ませた。継続して取り組ませることでできた。 ○秋の実習課題における読み解く力の向上を目標に意図的に取り組ませたがこれからも継続が必要である。		○「読み取る力の向上」ということであるが、新聞を積極的に活用して欲しい。読むだけではなく、積極的に「書く」活動も取り入れ、新聞投稿などで積極的に発信する活動を行っていくといふと思う。
	3 読書活動の推進	○年間読書冊数、低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊以上	低119 中75 高75	3	○図書主任による図書館サポーターを中心に、読書の楽しさを伝える活動の企画を定期的に行つたことで、本について興味をもつ児童が88%になつた。 ○図書館サポーターによる食育時間の読み聞かせを行い、ランチルームに図書の本コーナーを設置した。早く食べ終えた児童が本を読みながら読書する空間をつくり、児童が本を読む時間を確保する。 ●週間に1回は本を借りている児童が88%になりており、約23%の児童は、あまり図書室を利用していないことが分かつた。くれん号で図書冊程度は借りているが、図書室の本を借りることが少ない児童への対策が必要である。 ●自分で文字を讀って、本をじっくり読むことを課題が頼る。	○8時からの5分間の朝読を徹底し、読書を習慣化を図る。 ○高学年は、授業内容が多く授業の中でなかなか図書室を利用する機会がないため、朝読を充実させることで児童の読書習慣をつけることを目指す。 ●週間に1回は本を借りている児童が88%になりており、約23%の児童は、あまり図書室を利用していないことが分かつた。くれん号で図書冊程度は借りているが、図書室の本を借りることが少ない児童への対策が必要である。 ●自分で文字を讀って、本をじっくり読むことを課題が頼る。	○始業日をシグフィーで配信して欲しい。 ○図書においては、貸出冊数だけでなく、本の感想を伝えったり、紹介し合うような活動をしたらどうか。
		○「月1回は家読に取り組ませた」と回答する保護者が80%以上	72	2	○シグフィーで朝読日を活用した、「家族の日」「家庭の日」であることを、学級通信や、学校だ家庭の取組を行なうことができた。 ●家読に積極的に取り組んでいない家庭ある、保護者への説明・啓発を継続する必要がある。	○第3回曜日は「家庭の日」「家庭の日」であることを、学級通信や、学校だ家庭の取組を行なうことができた。 ●家読に積極的に取り組んでいない家庭ある、保護者への説明・啓発を継続する必要がある。	○児童だけでなく、保護者の認識、意識の向上が必要だと思う。
	豊かな心の育成	○児童アンケート「生活のきまりを守っている」と回答が80%以上	94	4	○生活のきまりを守っていると答えた児童が94%であり、目標値を達成した。	○自ら考えて行動(考勤)できるよう言葉かけを全職員が行う。 ○「道徳」や「学活」の授業等を通して、きまりを守ることの大切さを指導していく。	○地域の方々の見守りの元、子どもたちは安全に登下校でき、挨拶もしっかりとできている。
		○月1回の心のアンケートにおいて、いじめ早期発見・いじめ早期解決100%	88	3	○学級担任と生徒指導主事、全職員で連携し、教育相談の充実と迅速な対応に務めた。心のアンケート・教育相談において、いじめ・解消100%に努めた。 ●道徳や生活の授業はためになる88%と答えていた児童がいる。実践力へと繋がるよう日々指導の継続と見守りが必要である。	○「悩みアンケート」「教育相談」を活用し、いじめの早期発見・早期解決に努めた。日常の見守りや、児童が学校が楽しいと感じられるよう対応が必要である。	○道徳の授業を引き続き充実させて欲しい。自分たちに置き換えて考える力を身につけて欲しく。
		○学校が楽しいと感じる児童100%	88	3	●生徒指導の3機能(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する)を目標とした授業や学級作りを職員が実践したが、「学校が楽しい」と感じている児童が88%であった。 ●実習などを通じて職員の能力を育む努力が見える。 ●PTAで日々の活動を運営するには職員の協力が重要である。	○児童の小さな変化に気づいて、声かけを行うとともに、SOSの出し方についての指導を継続していく。	○悩みアンケートで、心の状態を把握できる取り組みがよい。これからも続けて欲しい。
	3 コミュニケーション能力の育成	○挨拶や返事ができたとする子どもが80%以上	94	4	○挨拶によっては、気持ちのよい挨拶を職員の100%が指導し、84%の児童が実践している。 ○保護者や生徒が互いに挨拶をするには70%の児童である。 ●返事については、児童100%、職員100%、保護者64%ができていると感じていない。	○全校集会や学級において、挨拶・返事の大切さの講話をしたり、挨拶・返事指導を徹底していく。(学校) ●PTAに協力し、気持ちの良い挨拶をするように家庭でも働きかけるようにする。(PTA)	○挨拶は、地域も方々に非常によくできている。
健康教育の充実と体力向上	1 健康で安全な生活习惯の定着	○ふもとっ子がんばり週間の早寝・早起きの達成率90%以上	90	4	○学年別に、児童アンケート結果100%、早寝64%、早起き57%であった。 ○運動教諭による「運動だらりやふと子がんばり週間」の実践を行つたことで、児童への啓発・振り返りができる。 ●朝まで起きている児童(36%)を見れる限り、メディアとの付き合い方を継続して身守り・啓発していくことが必要である。	●早寝が徹底できていないことがあった。メディアとのかかわり、今後も継続した啓発が必要である。	○学校と家庭が連携して、早寝の習慣化を図る必要があった。 ○学校と保護者が連携を図り、まずは家庭での状況把握をしっかり行なうことが大切だと思う。
		○学期に1回メディアアコントロールについて家庭との連携を図る ○メディアコントロールができたとする児童80%以上	82	3	○第1回学年保護委員会では職員が講師となり、メディアに関する講話を行った。第2回は、「目に良いおやつ作り」を通して、メディアアコントロール・健康・健眠に関する啓発を行なつた。 ●メディアアコントロールの指導は100%行ってきた。 ●職員による家庭との連携80%メディアアコントロールができている児童82%とメディアアコントロールの周知ができてきることが分かる。	○睡眠時間・学年に対応した時間)の確保、学習時間(宿題をする時間)の確保をしっかりと親や子に伝える。 ●PTAと連携した取組を行う。(ふもとっ子がんばり週間の設置)	○運動会では、地域・保護者が一体となり行事を盛り上げていた。子どもたちにとっては、よい刺激・環境であると思った。 ○一人一人の運動能力に合わせ、無理なく取り組めるプランが考ええてある。
	2 体力の向上	○体力テストの結果を踏まえた取り組みを実践100%	100	4	○判定の児童(R1は5人、R6は3名)が増えた。 ○体育育の運動量の目標(100%)、児童のぐんぐんキレイの取組(100%)取り組んでいる。 ●上体起こし!「握力」など自分の体を支える力や握る力を高める必要がある。	○体幹向上ラバを基に、学年または全校で落ち込んでいる項目の運動を体幹運動などを行なうなどを通じ実験をする。 ○「ぐんぐんタイム」を活用し、サーキット運動を行なつた。天気の良い星休みは身体を動かして外遊びをするよう啓発した。	○前田地域の校区は大変広い。遠くから通つて来る児童もいたが、最近は学校の近所に住んでいたり、送迎してもらっている状況もある。学校を支援してくださる地域の方々が朝の登校見守りをしてくださり、大変ありがたく思う。
	3 安全教育の推進	○年間3回以上の避難訓練の実施 ○子どもたちの目標になった安全点検の1回の実施	100	4	○計画通り避難訓練を、年1回行なうことができた。どの訓練も速やかに行なうことができた。火災訓練では地域と一緒に訓練を行うことができた。 ○月1回、安全点検を行なう際は「安全に確保できないものはすぐに市に申請し、修理していただくようにした。 ●毎月1回は命の大切さに対する意識解消(100%)と通じて実施している。 ●命の大切さに対するもの毎月1回であつた。前の放送で呼びかけていたが、朝の関係で週休日に当たることがあつたため、全職員、児童への啓発が必要であった。施設で安全が確保できないものはすぐに市に申請をし、修理していただこうようにした。		○命を大切にする日(毎月1日)を大切にし、保護者にも発信して欲しい。
家庭・地域とつながる教育の推進	1 学校運営協議会を中心とした地域との連携	○授業への地域人材・素材の活用年間6回以上	100	4	○ふもとっ子を伸ばす会・民生児童委員の協力をいただき、糸作体験活動(田植え・畠刈り・脱穀・もちつき・めのもち等)野菜栽培や谷川傳り保育会との協力で農芸芸能の指導をして顶いたところができた。 ○高崎・笛木ブロックで共通実験している「9年間で身に付けて欲しい力」をもとに、小中一貫で実験をを行うことができた。		○地域の協力・交流も多く、地域との密なつながりを感じる。
		○家庭・地域との連携に関する保護者アンケート満足度80%以上	92	4	○家庭と地域との連携については、満足度92%だった。		○学校と家庭と地域の距離感が近く、子どもを中心成長をみんなで見守る環境である。
	2 小中一貫教育の推進	○小中一貫教育の共通実験を工夫して取り組んだとする職員が80%以上	100	4	○高崎・笛木・笛木ブロックで小中一貫教育の研修を開催、T2学年で高崎地区で共通実験を行うことができた。		○TZ学習を見ることができたので、本校児童の学習の様子だけでなく、高崎地区的児童生徒の学習の様子を見ることができた。
	3 学校からの情報発信	○月1回以上の学校だよりとHP更新	100	4	○月1回の学校だよりの発信(地域の回覧板による発信)、1週間に1~2回のホームページ更新、シグフィーの活用、職員による定期的な学級通信など、学校からの情報発信を積極的に行なうことができた。		○シグフィー配信でペーパーレス化を図ることができた。
	4 環境教育の推進	○年2回以上講師を招き、4Rについて理解の深め ○生活力・総合的な学習の時間での年間を通してした計画的な取組実施	100	4	○SDGs・4R(授業)、講師を招いた校外学習を行い、環境について学習できた。 ○4Rのためにやることをしている児童(94%)が増えた。前田が好きな教室が94%であった。 ○ふもとっ子伸ばす会の協力を得て耕作体験活動、めのもち作り、紅葉も作り、環境について学ぶ校外学習等、年間を通して計画・実施することができた。		○めのもち作りは1/14以前に行った方がよいと思う。 ○環境教育への取り組みが行われ、とても嬉しいと思う。